鎧橋 随想（順不同）

運と信頼

フジフューチャーズ
常務　福田　一夫

相場と格闘して29年。4年前には、大事なお金の使い方は相場で売買するよりもベンチャー企業に回した方が有益だと考え、ベンチャーの世界へチャレンジ。そして、縁あり、再び、相場の世界へ呼び戻され、今度は最も投機色の高い商品相場の世界に挑戦、悪戦苦闘の毎日です。

証券時代、何とかお客様に喜んでいただこうと思い、ない知恵を絞り、日本の債権大国の大相場にうまく対応し、鉄鋼株でお客様に儲けていただいた。「顧客とともに栄える」が実現でき、証券マンとしていい経験が出来た。

そして、90年代の未曾有の超低金利に遭遇し、債券大相場。ここでも、お客様と喧々諤々の議論をしながら、日本国債買いを薦め、いい仕事が出来た。昨年6月に10年国債の金利が0・4％まで下がり、歴史的なピークアウトを付けた模様。

現在、金価格1、500円手前、大相場か？。デフレからインフレ時代に突入の時期、BRICsの台頭が背景にあり、少なくとも過去の高値は抜きそうだ。運の良さに守られ、2度あることは3度あるか？。実物経済の時代を迎え、コモディティ大相場が予想され、商品業界に身を寄せている幸いを感謝しています。

癒し

ローズ・コモディティ
常務　阪野　和義

我が家の家族構成は、家内と娘そして愛犬一匹。

帰宅すると、家族の代表として真っ先に愛犬が体中震わせシッポをふり、出迎えてくれる。そのセレモニーに接すると、疲れも癒される。

その癒し犬の犬種はメスのシー・ズーです。この種の性格は、おおらかで明るく遊び好き。原産地がチベット、共に生活していると、こちらも何故か大陸的心を持ったような気になるのは、おそらく飼い主だけだろう。

我が家では娘も成長して、いまや癒し犬中心の生活になっている。夫婦の会話、近所同士の会話等、犬の話題がかなり多い。彼女（犬）の存在は、家族の一員としての役割を十分果たしている。

我が家に来て5年になる（人間の年齢で言えば34才位だろう）。幼犬時より、家族から「可愛い」という言葉を掛けられながらお腹をさすられ育てられた為か、近頃では、何も言葉を掛けなくてもお腹をさすれと要求してきたり、いたずらして叱られそうになったらお腹を見せる仕草をする。どうも学習して甘え上手になったようだ。

犬にとっては、家族そのものを『群れ』としての認識で接しているのに、飼い主は自分の子供のような接し方をして癒されている現実は、なんとも不思議である。

野球に学ぶ

ハーベストフューチャーズ
常務　姫野　健一

野球界は球団の新規参入や身売り騒動などで連日のようにスポーツ新聞を賑わせたが、それだけ野球が国民的スポーツとして我々の生活に浸透している証拠だろう。私も野球少年として青春時代を過ごし、不惑を通り越した現在の歳になっても野球熱は冷めずに、草野球の現役選手兼監督としてプライベートチームを率いている。

東京都豊島区の野球リーグには400チームほどが登録しており、実力順に1～4部リーグに分け、その上に特別リーグがあり、毎週のように試合をしている。私のチームは強豪を相手に勝ち上がり、特別リーグ入りするまでになった。

いうまでもなく野球は団体競技であり、選手個人個人が実力を発揮してはじめて勝利を手にすることができる。野球を通じてさまざまなことを学ぶことができたが、特に人のマネージメントについては仕事のうえでも大変に役立っている。その経験が現在の私の立場としての礎になっているものと思っている。

個々の能力を引き出して組織の力をうまくまとめることができれば、実力上位のチームとも互角に戦えるのである。選手の能力を発揮させるマネージメントに創意工夫をすることが私の楽しみでもある。

新幹線百景

大起産業
取締役　田中　弘晃

東京出張、のぞみに乗る。早朝にもかかわらず、名古屋駅でほぼ満席。乗務員のアナウンスがやかましい。時々こういった車輌に乗り合わせることがある。「名古屋駅でかけこみ乗車をした人が2人もいた。危ないから絶対しないように」と呼びかけている。テンポの良いその語り口は、恐らくマイクを持ったらしゃべり続けていたいのだろうが、説教じみているところに乗客のシラケたムードがただよう。

アナウンスが終わって静かになったと思ったら、今度は乗車券のチェックにやたらキビキビした乗務員が登場する。一人一人に大きな声で挨拶しながら、「キップを拝見！」とくる。私のところに回ってきたときにこの原稿をチラッとのぞいていったが、まさか自分のことを書いているとは気が付かなかったのだろう。まるで、バネ仕掛けのような動作で隣りの車両に消えていった。

新横浜辺りを過ぎた頃から、例のマイク好きの人が忘れ物をしないよう注意を呼びかけてきた。ちなみに先月の忘れ物の第1位は乗車券だったとのこと。この人は、最後は必ずこのことを言いたくてしゃべり続けているのかもしれないと思った。

しかし、出張の旅程は、とにかく静かであって欲しいとつくづく感じたのである。

筋肉イジメ

岡地
取締役　横関　勉

元来、体を動かすことが好きで、学生の頃から30代半ばは主に道場へ。武道界には仙人のような達人もいた。

その後もいろいろと動いたが、定年後にゆっくり再びやりたいのが、カヌーとパラグライダー。逆に年と共に考えたくもないのは、雪の中での滝修行。終わった後、60分は全身の震えが止まらない。80過ぎてもできる可能性が高いのは、吹き矢だと思う。

ここ7年間は、ジムでの筋トレが中心。切っ掛けは、走り過ぎで痛めた腰を治すための背筋強化。一つのスポーツを長く続けると、使い過ぎる所と使わない所に分れ、体に歪みもできる。その点、筋トレは全身を均等に鍛えることが可能。しかも短時間で。バーベルやマシンの重量や回数、トレーニング間隔を変えることで、筋肉の質もパワー系、持久系と好み通りに作れる。筋肉に楽をさせると、すぐ退化するので、時々はイジメテ、筋肉痛という悲鳴を上げさす程度が丁度いい。

また、道場でもそうだったが、ジムでも教え合い、一緒に汗を流していると、国籍や世代、職業の違う人達とも、すぐ仲間意識が生まれ、何かにつけて宴会も開く。今の趣味を生涯続けていけば、「健康と友人」だけは不自由することはないだろう。

熱い思い

光陽ファイナンシャルトレード
執行役員　木村　末義

最近、我ながら物忘れが多い。「あのー、あのー」の我が家には20代後半になる愚息が1人おります。未だに定収入・定職もなく、生活面では面倒を見る状態で、情けないと思っています。が、そのような彼に唯一感動すべき美点があります。

学卒以来5～6年程、演劇活動の研修をしていますが、かなり以前からその業界への憧れを持っていたようです（私は全くもって知りませんでした）。

近く演劇の舞台があるらしく、日夜遅くまで練習をしているのでしょう。夜半近くに〝へとへと〟の状態で帰宅してきます。その彼がさらに家で朝方近くまで「一生懸命練習（復習）」している場面をまのあたりにしたことがあります。今までの彼の性格等から考えまして、有り得ないことなのです。

その時に気付かされました。生活面では未だに彼のために借りたマンションの家賃、食費、学費、小遣い等々、面倒を見る状態ながら、本人が好きなこととはいえ、一生懸命に全身を打ち込んでいる姿をみると〝親バカ〟ながら感動し、頑張れとエールを送ってやりたい心境です。

世間では「親の背中を見て、子は育つ」と言われ、我が家では逆行していますが、「何か」を教えられました。

拝見 登山

夫婦の絆求めて

協栄物産取締役
中沢　益次郎

中沢さんはもともと、アウトドア型で、この1年ほどヘルニアで苦しんでいるが、ゴルフ、日曜園芸、庭仕事など体を動かすことは大好きである。

登山のきっかけは6年前、夫人と関東の名峰、筑波山へ登ったことだった。その時も、はじめケーブルで登る予定が、余りの混雑に「いっちょう、やってみるか」とわが足で登り詰め、以来、熟年夫婦登山にはまってしまった。

「この時、家内と初めて趣味が一致しました。これから老後を控えて、何か一緒にできるものを持っておかないといけないと思いましてね」。

以前、協栄物産には奥石さんという登山の名人がいた。新光証券の出身で協栄では監査役をやっていたが、1年に50～60回も登山するプロ級の腕前で、中沢さんに登山の楽しさをしばしば語っていた。この奥石さんの登山談議も、中沢さんが「五十にして登る」下地となったかもしれない。

登山の楽しみは地図やガイドブックをもとに計画を練るところから始まるという。標準行程に2時間プラス、余裕を持たせ、事前に必ず地元の観光課に山の状態や標識等を確かめる。

出発日は早朝、車で登山口まで出掛け、午前中に頂上に着くよう心掛けている。午後になると、山の気候は急変することがあるからだ。3、000メートル級の乗鞍岳や赤岳にも登頂したが、山の高さにはこだわらない。そして深田久弥の「日本百名山」を片っ端から踏破しようというつもりもない。自分で目星をつけて、登ってみようと思い立った山を手掛け、大学ノートに克明に記録していく。

中沢さんは現在千葉に住んでいる。ゴルフには便がいいが、登山には不向きな土地柄である。他所に移住することも考えたことがある。

「いずれは槍ヶ岳や穂高岳も登ってみたいものです。そして、ふもとの温泉につかるのは最高ですね」

山男は「そこに山があるから登る」という。中沢さんは「そこに夫婦の絆があるから登る」。

谷川岳に登る克子夫人

赤岳頂上に立つ中沢さん

先物研究助成1、188万円

先物協会　一橋大学が半数

先物協会はこのほど2004年度の「商品先物取引に係る研究調査助成金制度」の助成対象10件を決め、1月18日の理事会で報告した。

助成金は1件当たり、60万～200万円で、合計額は1、188万円。

一橋大学と一橋大学大学院の教授、助教授、講師等が関係する研究が5件と半数を占めている。

そのほかは、新潟大学、学習院大学、國學院大学法科大学院、長崎大学と、財団法人農村金融研究会。

事務局だより

先般の当協会主催「商品先物なっとくスクール」で、ある熟年の投資家の方が、「取引で大きな損失を出したが、それを教訓に相場を勉強し、現在は損失の半分を取り戻した。世界中の様々なニュースに関心を持つようになり、とてもエキサイティングな日々を過ごし、ボケ防止にも効果がある」と話しておられました。

相場をする目的は資産を増やすことですが、それだけではなく、「生き方」にも大きな影響を与えるような、何か深遠なものが相場というものにはあるのではないか。スクール会場でそんなことに想いを巡らしていた次第です。